

総合生活支援技術演習計画書

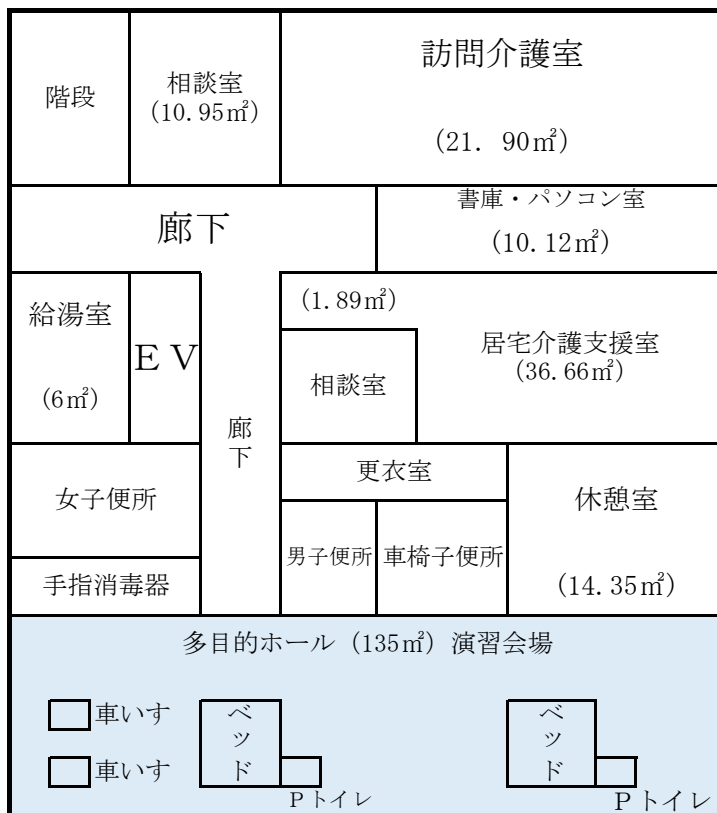
1 実施方法

事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習
→支援技術の課題のサイクルにて展開し、介護に至るまでの総合的な手順を通じ演習を行う。

2 演習実施会場

社会福祉法人敬和会別館3階多目的ホール（演習会場）

別館3階平面図



3 主な使用備品および数量

- ・ ベッド（電動等） 2台
- ・ 車いす 2台
- ・ ポータブルトイレ 2台
- ・ 寝具 3組
- ・ パジャマ、寝間着 各3着
- ・ その他
(紙オムツ、バスタオル、シャワーチェア等)

4 タイムスケジュール

- 【1グループあたりのタイムスケジュールについて】
- (1)想定事例1のタイムスケジュール（所要時間2.5時間）
- 事例の提示（10分）
- こころとからだの力が発揮できない要因の分析（40分）
- 適切な支援技術の検討（40分）
- 支援技術演習（40分）
- 支援技術の課題（20分）
- (2)想定事例2のタイムスケジュール（所要時間2.5時間）
- 事例の提示（10分）
- こころとからだの力が発揮できない要因の分析（40分）
- 適切な支援技術の検討（40分）
- 支援技術演習（40分）
- 支援技術の課題（20分）

5 想定事例について

<想定事例1>

ア 事例内容（利用者のプロフィール（生活歴、家族歴、既往症など）、サービス提供の内容等）

中川 千尋さん（仮名、84歳 女性 要介護4）

【健康状態】アルツハイマー型の認知症が進行し、身の回りのことを認知できず、発語もなく、歩く、立つ、座ることもできない状態。尿意、便意の訴えもなく、ほぼ寝たきり状態。麻痺はないが、四肢の関節に拘縮が見られ、特に膝関節と肘関節は軽度に曲がった状態になってからほぼ2年になる。

【一日の様子】午前7時に目覚め、オムツや着替えの介助を受けている。介助を受けているとき、眉間にしわを寄せて嫌な表情をすることがある。午前8時には朝食（ペースト食）、口腔ケアの介助を受けている。以前は総義歯をつけていたが、サイズが合わなくなり現在は入れていない。食後、午前10時頃まで車いす上で過ごしている。その後は昼食までベッドで臥床し、昼食前にオムツ介助、その後、昼食、車いすで過ごし、夕食というリズムで一日を過ごしている。

イ 学習目標（学習するポイント）

認知症の進行により自分の要望を訴えることや意思表示ができないこと、寝たきり状態の生活を余儀なくされていることから、寝たきり状態をそのままにした場合に発生するさまざまなリスクについて考えてみる。そして、その視点がどのような知識を用いて判断しているかに注意して展開していく。

<想定事例2>

ア 事例内容（利用者のプロフィール（生活歴、家族歴、既往症など）、サービス提供の内容等）

村田 秋雄さん（仮名、76歳 男性 要支援2）

【健康状態】脳梗塞で左不全麻痺（利き手は右）になってから半年が経過した。軽度の構音障害はあるが、会話や意思伝達には問題ない。現在、リハビリテーションに週2回通っている。移動は杖歩行、排泄や食事もほとんど自分でできるものの、立ち上がり時ふらつきがあり歩行と入浴は見守りや一部介助が必要。家事（調理、掃除、買物等）は妻が行っている。

【一日の様子】午前6時に起床し、トイレ、日常着への着替え、午前7時30分に朝食（一般食）、歯磨き（74歳から総義歯）、髭剃り、髪をとかすという朝の行為を一部の介助を受けながら行っている。その後、リハビリ室で歩行訓練、昼食を済ませ、夕方までの間に入浴や自分の好きなことをして過ごしている。午後9時30分には一部の介助を受けて寝間着に着替えてベッドに入り、夜間不眠を訴えることもなく、朝まで睡眠している。

イ 学習目標（学習するポイント）

左不全麻痺を抱えながら日常生活動作を自立できるようにするための支援と同時に、転倒など麻痺があることによるリスクが考えられるので、安全を考慮した方法をどのように考えているか、どのような知識を用いて判断しているかに注意して、展開していく。